

第77回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 議事録（案）

I. 日 時：2016年8月24日（水）13時30分～15時00分

II. 場 所：日本機械学会 第1会議室

III. 出席者：（委員17名中、出席者13名（うち代理3名）、欠席者4名）

三原（東北大）、飯田（東電FP）、藤田（MHPS）、三好（川崎重工）、天野（早大）、
桑野（関電）、野井（ロイド）、松田（HSB ジャパン）、島田（東芝）、大橋（IHI）、

代理者：西川（NIMS：木村）、西ノ入（電中研：屋口）、森（新日鐵住金：長谷川）

欠席者：佐藤（発電技検）、岡（富士電機）、堀（経産省）、長塚（電源開発）

オブザーバ：東垂水（中部電力）、園山（火原協）、中谷（大口自家懇）、海老沢（電気協会）、
樺田（MHPS）、尾山（東電FP）

事務局：原

IV. 配付資料

77-1 第76回火力専門委員会議事録（案）

77-2 専門委員会・分科会委員案

77-3 第78回規格委員会議事録（案）

77-4-1 材料分科会報告

77-4-2 構造分科会報告

77-4-3 溶接分科会報告

77-4-4 配管減肉分科会報告

77-5 各分科会審議履歴表

77-6 「火力設備配管減肉管理技術規格の改訂案」の公衆審査結果報告

77-7 材料専門委員会へSN材の規格化に関するデータ解析結果の提供依頼について

77-8 正誤表の発行などの誤記対応の方法について

77-9 質疑応答への質問に対する回答（S TB1-2009）

77-10 火力関係の規格販売実績

V. 議事

1. 前回議事録確認

[77-1]

前回議事録（案）の確認を行ない、議事録案は承認された。

2. 専門委員会、分科会の委員・役員承認

[77-2]

(1) 火力専門委員会委員の推薦承認

屋口委員、五代儀委員、古屋委員、長尾委員、沖委員の退任が報告された。ただし、屋口委員の任期は9月30日まで。また、大橋委員の再任意向、新任候補として福富氏（電中研）、高木氏（火原協）、中谷氏（大口自家発懇）、東垂水氏（中部電力）、海老沢氏（日本電気協会）の推薦が報告され、出席委員全員の賛成により規格委員会へ推薦することが承認された。

- ・火力専門委員会：（新任） 福富氏(電中研)、高木氏(火原協)、中谷氏(大口自家発電)、東垂水氏(中部電力)、海老沢氏(日本電気協会)
- （退任） 屋口委員、五代儀委員、古屋委員、長尾委員、沖委員
- （再任） 大橋委員

(2) 分科会委員の承認

各分科会の以下の新任、退任、再任意向および役員の互選による推薦が報告された。採決を行った結果、出席委員全員の賛成により承認された。

- ・材料分科会： （新任候補）長谷川氏(中部電力)
- （退任） 齊藤委員
- （再任） 伊藤委員(主査)、妹尾委員

- ・構造分科会： （新任候補）太原氏（東芝）
- （退任） なし
- （再任） 妹尾委員

- ・溶接分科会： （新任候補）なし
- （退任） なし
- （再任） 大橋委員

- ・配管減肉分科会 （新任候補）堀氏（関電）、園山氏（火原協）
- （退任） 川端委員、五代儀委員
- （再任） なし
- （役員） 今村委員：幹事

3. 報告事項

(1) 発電用設備規格委員会報告

[77-3]

第78回規格委員会の議事内容のうち、火力に関連する内容が報告された。主な事項は以下のとおり。

- 質疑応答への質問に回答したことの報告
- 火力専門委員会報告
- 発電用火力設備規格に関する審議結果報告
 - ・火力設備配管減肉管理技術規格改訂案の規格委員会書面投票結果による修正案に関する審議・・・審議の結果、一部再修正（JIS Z2305の年版を併記する理由を記載）し、再修正箇所をメール審議(火力専門委員会、規格委員会)することになった。
 - ・メール審議(火力専門委員会、規格委員会)可決後、本改訂案の公衆審査、JESCへの審議が承認された。

(2) 分科会報告

1) 材料分科会報告

[77-4-1]

西川材料分科会副主査から第 82 回分科会（H28.8.8）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- 第 30 回材料専門委員会(5/30)報告・・・SN 材の規格化検討依頼に対する回答案の書面投票結果など。
- 発電用火力設備規格 201X 年版レビュー票の審議状況

2) 構造分科会報告

[77-4-2]

飯田構造分科会主査から第 90 回分科会（H28.7.12）、第 91 回分科会（H28.8.22）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- ダブルチェックの進め方の確認。
- 発電用火力設備規格 201X 年版レビュー票の審議状況。
- ダブルチェック結果を反映したレビュー票の審議状況。

3) 溶接分科会報告

[77-4-3]

樺田溶接分科会副主査から第 71 回分科会（H28.7.14）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- 発電用火力設備規格 201X 年版レビュー票の審議状況
- レビュー票のダブルチェックの具体的な進め方の確認、ダブルチェック例の説明
- 規格活用のための意見交換の紹介

4) 配管減肉分科会報告

[76-4-4]

尾山配管減肉分科会主査から第 15 回配管減肉分科会（H28.7.27）の議事内容が報告された。主な内容は以下のとおり。

- 規格委員会書面投票 No.330 の書面投票意見対応による規格の再修正案のメール審議実施の経緯・結果報告。
- 「火力設備配管減肉管理技術規格の改訂案」の公衆審査意見受付状況報告

(3) 火力設備配管減肉管理技術規格の改訂案の公衆審査結果報告

[77-6]

2016 年 7 月 6 日から 8 月 7 日の期間で実施され、ご意見が無かったことが報告された。

(4) その他

1) 質疑応答への質問への回答

[77-9]

前回の火力専門委員会で承認された回答を、質問者に回答するとともに、ホームページに掲載したことが報告された。

2) 火力関係規格販売実績報告

[77-10]

火力関係の規格の販売実績が報告された。

4. 審議事項

- (1) 材料専門委員会へSN材の規格化に関するデータ解析結果の提供依頼について [77-7]
西川材料分科会副主査から、材料専門委員会に依頼する文書案について提案があり、審議の結果、当案により材料専門委員会に依頼することが承認された。

- (2) 火力関係規格の誤記対応方針(案)について [77-8]
飯田副委員長から、火力関係規格の誤記対応方針(案)について説明があり、本日のご意見を参考に方針(案)を修正し(修正内容は、飯田副委員長一任)、各分科会と調整することが承認された。

<主なご意見>

- 「最新版のみが有効である」とすると、改訂直後には火技解釈に有効でない前の版が取り入れられている状況となり、不都合が生じると思われる。
- 規格の改訂には誤記修正以外の変更も有る。その場合、誤記ではない古い規定は事業者の判断で使っても差し支えないと考えられるが、「最新版のみが有効」とすると、それが使えないことになるのではないか。
- 規格は最新版が最も最新技術が反映されていることは当然のことなので、わざわざ「最新版のみが有効」と明記することには違和感がある。変更箇所一覧に何らかのノートを付ければ十分と思う。
- 「有効である」とすると強すぎるので、表現を工夫した方がよいのではないか。

VI. 次回開催予定

日 時：2016年11月16日(水) 13:30～17:00

場 所：日本機械学会 第1会議室